

授業実践事例

内容のまとめ 「C 消費生活・環境」(1) 金銭の管理と購入

〔中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 技術・家庭編 pp.108-113〕

題材名 「目指そう！賢い消費者」

働かせる生活の営みに係る見方・考え方 「持続可能な社会の構築」

1 題材の目標

- (1) 購入方法や支払い方法の特徴、計画的な金銭管理の必要性、売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解するとともに、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。
- (2) 物資・サービスの選択・購入について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- (3) よりよい生活の実現に向けて、金銭の管理と購入について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。

2 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解している。 - 売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解しているとともに、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。	物資・サービスの選択・購入について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現に向けて、金銭の管理と購入について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

題材の目標や評価規準の設定については、国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」を御参照ください。



3 題材の指導と評価の計画(全6時間)



4段階で構成される一連の問題解決的な学習過程(生活の課題発見 → 解決方法の検討と計画 → 課題解決に向けた実践活動 → 実践活動の評価・改善)を基に、題材の指導と評価の計画を立てます。

過程	時間	○ねらい・主な学習活動	評価規準(丸数字) 評価方法(□)		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活の課題発見	I (本時)	○自分や家族の物資・サービスの選択・購入について振り返って問題を見だし、課題を設定することができる。 ・自分や家族の消費行動について振り返り、物資・サービスの選択・購入に関わる問題点を発表し合い、課題を設定する。 ・本題材の見通しをもつ。		① 物資・サービスの選択・購入について問題を見いだして課題を設定している。 □学習計画表 □ワークシート	

過程	時間	○ねらい・主な学習活動	評価規準(丸数字) 評価方法(□)		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
解決方法の検討と計画	2	○多様化した購入方法や支払い方法の特徴について理解することができる。 ・店舗販売や無店舗販売などの利点と問題点について知る。 ・支払い時期の違いによる特徴と三者間契約の特徴について知る。	①購入方法や支払方法の特徴について理解している。 □ワークシート 指導に生かす評価		①金銭管理と購入について、課題解決に向けて、主体的に取り組もうとしている。 □ポートフォリオ
	3	○多様な支払方法に応じた計画的な金銭管理の必要性について理解することができる。 ・優先順位や支出項目を調整し、家族が健康で快適な生活を送るための収支の調整方法を検討する。 ・検討したことをグループ意見交流する。 ・鈴木家への金銭管理におけるアドバイスを考える。	②計画的な金銭管理の必要性について理解している。 □ワークシート		
	4	○売買契約の仕組み、消費者被害と背景とその対応について理解することができる。 ・物資・サービスの選択・購入の際に成立している売買契約について知る。 ・消費者被害が発生する背景や被害を回避する方法や適切な対応の仕方などについて調べ、発表し合う。	③売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解している。 □ワークシート		②金銭管理と購入について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 □ポートフォリオ □行動観察
課題解決に向けた実践活動	5	○物資・サービスの選択に必要な情報を適切に収集・整理し、情報を活用して購入について考え、工夫、検討することができる。 ・各自が鈴木家の購入する自転車について必要な情報を収集・整理を行う。 ・収集・整理した情報から、購入する自転車を選択する。	④物資・サービスの選択・購入に必要な情報の収集・整理が適切にできる。 □ワークシート ①の評価規準 記録に残す評価	②物資・サービスの選択・購入について考え、工夫している。 □ワークシート	
実践活動の評価・改善	6	○購入する自転車についてグループで発表し合い、評価・改善することができる。 ・意見交流を踏まえ、物資・サービスの選択・購入に必要な情報を改めて見直し、鈴木家にふさわしい自転車を再度選択する。 ・自分が考えるよりよい物資・サービスの選択・購入をまとめる。 ・題材の振り返りを行う。		④物資・サービスの選択・購入について課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に発表している。 □行動観察 □ワークシート ③物資・サービスの選択・購入について実践を評価したり、改善したりしている。 □ワークシート	③よりよい生活の実現に向けて、金銭の管理と購入について、工夫創造し、実践しようとしている。 □ポートフォリオ

※「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」における評価規準(丸数字)は、「学習評価 FIRST STEP 『4 評価のポイント』及び『5 評価規準作成のポイント』」の丸数字と対応しています。

題材の指導と評価の計画の作成については、国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」や佐賀県教育センターHP「[題材デザイン FIRST STEP](#)」、「[学習評価 FIRST STEP](#)」を御参照ください。



4 本時のねらい

自分や家族の物資・サービスの選択・購入について振り返って問題を見だし、課題を設定することができる。

5 本時の展開(1/6)

	主な活動等	指導上の留意点(口評価)	ポイント
導 入	1 小学校家庭科での「物や金銭の使い方と買い物」の学習を振り返り、生活の中で実践したことを発表する。 2 本時の学習課題を確認する。 「目指そう！賢い消費者」の実践に向けて課題を設定しよう	・学習の見通しをもつことができるように、小学校家庭科での既習事項である身近な物の選び方、買い方の工夫、情報の収集・整理に触れる。 ・自分の生活と関連付けるため、生活の中で実践したことを問う。	【主な活動等1、2】 授業の導入部分で、小学校家庭科での既習事項を振り返り、生徒と学習課題を共有することで、生徒が学習の見通しをもち、主体的に学ぶことにつながっていきます。
展 開	3 事前アンケートの結果を基に、学級全体の消費行動の実態を知る。さらに、物資・サービスの選択・購入における買い物トラブルの事例を知る。 4 自分や家族の物資・サービスの選択・購入について問題を見だし、ICTを活用して、学級全体で共有する。 ⇒ 工夫1:問題を見だすためのICT活用の例(p.4) 5 「目指そう！賢い消費者」の実践に向けて、課題を設定し、その理由を示す。 ⇒ 工夫2:学習評価の例(p.5) 〈課題例〉 ・物資・サービスの必要な情報を収集して、活用できるような消費者になるには？ ・消費者トラブルに遭わない消費者になるには？ ・家計にも環境にも優しい物資・サービスを選択して購入できる消費者になるには？ 6 課題についてグループで発表し合う。	・自分や家族の身近な問題として捉えるようにするために、事前アンケートの結果を全体で共有する。 ・生徒と共有すべき物資・サービスの選択・購入における買い物トラブルの事例を紹介する。 ・次の4つの観点から問題を考えるよう促す。 ・計画的な金銭管理 ・合理的な意思決定 ・物資・サービスの情報収集と活用 ・環境に配慮した物資・サービスの選択 ・「目指そう！賢い消費者」の実践に向けて、「持続可能な社会の構築」の視点と関連させ、課題を設定し、その理由を示すよう促す。 ・机間指導を行い、課題設定が難しい生徒には、事前アンケートの結果や教師の提示例などを基に考えるよう助言する。 「思考・判断・表現」 ①物資・サービスの選択・購入について問題を見だして課題を設定している。 (学習計画表、ワークシート) ・自分事の課題となるよう設定した理由を明確にするよう助言する。 ・課題を設定した理由を明確にして発表するよう声掛けをする。 ・「持続可能な社会の構築」の視点が入っているかを確認するよう声掛けをする。	【主な活動等4】 ICTを活用して、個々で考えた問題を学級全体で共有することで、自己と他者の共通点や相違点を確認し、学びを深めることができます。 【主な活動等6】 個々が設定した課題をグループで発表し合うことで、他者の考えに触れ、自らの考えを明確にしたり、広げ深めたりすることができます。 【主な活動等7、8、9】 学習したことを振り返ったり、次の学習の見通しを立てたりすることで、自らの学習を調整しながら主体的に学ぶことにつながっていきます。
ま と め	7 本時の学習内容のまとめを行う。 8 本時の振り返りを行う。 9 次時の学習を確認する。	・本時のねらいと照らして、本時の学習内容を確認する。 ・できるようになったことや次への課題など、振り返りの視点を示す。 ・学習に見通しをもつことができるよう学習計画表を用いて、今後の学習活動を確認する。	

6 本時における指導と評価の工夫

工夫1:問題を見いだすためのICT活用の例

本時の主な活動等4「自分や家族の物資・サービスの選択・購入について問題を見だし、ICTを活用して学級全体で共有する」における具体を示します。

ここでは、電子黒板や1人1台端末を活用して、事前アンケートの結果等を基に個々で考えた問題を学級全体で共有することで、自己と他者との共通点や相違点を確認できるようにします。そうすることで、自分や家族の物資・サービスの選択・購入における問題について、新たな気づきを促すことをねらいとしています。

教師 自分や家族の物資・サービスの選択・購入において、4つの観点(p.3)を示したシートを生徒に提示します。視点ごとに色分けしてデジタル付箋に入力するよう指示します。

ポイント 観点を示すことで、自分や家族の物資・サービスの選択・購入における問題について、多面的・多角的に考えることができるようにします。

生徒 自分や家族の物資・サービスの選択・購入における問題をデジタル付箋に入力し、観点到に分けてシートに貼り付けます。

ポイント 個々で入力したデジタル付箋をシートに貼り付けていくことで、画面上で即時的に他者が挙げた問題を確認することができるようにします。また、それらを参考にしながら、自分や家族の物資・サービスの選択・購入における問題を書き加えていくことができるようにします。

学級全体 個人で入力したデジタル付箋(自分や家族の物資・サービスの選択・購入における問題)を学級全体で共有します。

ポイント 共有されたデジタル付箋をグルーピングし、他者との共通点や相違点を確認できるようにします。そうすることで、自分や家族の物資・サービスの選択・購入における問題について新たな気づきを促すことができるようになります。

計画的な金銭管理における問題

合理的な意思決定における問題

物資・サービスの情報収集と活用における問題

環境に配慮した物資・サービスの選択における問題

【資料1 教師が観点を示した画面】

計画的な金銭管理における問題

合理的な意思決定における問題

物資・サービスの情報収集と活用における問題

環境に配慮した物資・サービスの選択における問題

【資料2 生徒がデジタル付箋を貼り付けている画面】

計画的な金銭管理における問題

合理的な意思決定における問題

物資・サービスの情報収集と活用における問題

環境に配慮した物資・サービスの選択における問題

【資料3 学級全体でデジタル付箋を共有している画面】

工夫2:学習評価の例

本時の「主な活動等5」「目指そう！賢い消費者」の実践に向けて、課題を設定し、その理由を示す」における学習評価の具体を示します。

本題材では、「目指そう！賢い消費者」の一連の問題解決的な学習過程（生活の課題発見 → 解決方法の検討と計画 → 課題解決に向けた実践活動 → 実践活動の評価・改善）について記録できる学習計画表とワークシートを作成しています。

本時の「思考・判断・表現」の評価規準①「物資・サービスの選択・購入について問題を見いだして課題を設定している」については、主にワークシートの記述内容から評価しています。記述内容を適切に評価することができるように、ワークシートには〈問題〉〈課題〉〈課題を設定した理由〉を記入する欄を設けました。自分や家族の消費行動を振り返り、「持続可能な社会の構築」の視点と関連させ、事前アンケートの結果や教師の提示例、学級全体で共有したことを基に、問題を具体的に挙げ、物資・サービスの選択・購入を結び付けて課題を設定し、その理由を示している場合を「おおむね満足できる」状況（B）と判断しました。その際、「努力を要する」状況（C）と判断した生徒に対しては、事前アンケートの結果や教師の提示例を再度示したり、1人1台端末を用いて学級全体で共有したことを確認するよう促したりして、課題を設定することができるよう支援を行いました。

「おおむね満足できる」状況（B）と判断した生徒の本時のワークシートの記述内容を以下に示します（資料4）。

☆「目指そう！賢い消費者」に向けて、自分自身の課題を具体的に設定しよう （ ）組（ ）号 名前（ ） 〈問題〉 ・物を購入する時、価格で決めることが多く、<u>表示やマークをあまり見ていない</u>。 ・服を買ったけど、<u>結局あまり着なかったものがある</u>。 （他の服との組み合わせが分からなかった） ・<u>インターネットやキャッシュレスでの買い物の仕組みが、よく分からない</u>。 ↓ 〈課題〉 ・自分に合った物資・サービスを選べる消費者になるためには？ 〈課題を設定した理由〉 ・価格だけでなく、<u>いろいろな情報を基に、ものを選べるようになりたいし、いろいろな買い方や支払方法のメリット・デメリットが分かれば、自分が納得できるものを選べるようになると思うから</u>。	・点線の記述から、「<u>物資・サービスの選択・購入について問題を見いだして課題を設定している</u>」と判断しました。 ・□囲みの記述から、「<u>持続可能な社会の構築</u>」の視点を踏まえて、課題を設定していると判断しました。 ・〈問題〉〈課題〉〈課題を設定した理由〉の記述から、<u>問題を具体的に挙げ、物資・サービスの選択・購入を結び付けて課題を設定し、その理由を示している</u>と判断しました。
---	---

【資料4 生徒のワークシートの記述内容】

ワークシートを作成する際には、設問の内容や項目、レイアウト等を吟味してみましょう。そうすれば、生徒の学習状況を適切に見取ったり、教師の授業改善や生徒の学習改善に生かしたりすることができます。

ポイント



7 授業者の声

4段階で構成される一連の問題解決的な学習過程を基に、題材の指導と評価の計画を立て、本時では生活の課題発見の段階において授業実践を行いました。

問題を見いだす場面では、家族・家庭生活の消費生活の変化や生徒自身の生活経験等、差があるため、事前アンケートを行ったり、中学生に多い消費者トラブルの例を提示したりして、生徒が自分事として生活の中から問題を見だし、課

題設定ができるようにしました。事前アンケートに関しては、授業と同じ4つの観点（p.3）で質問を作成したことで、より消費行動における失敗の具体例が引き出され、生徒にとっても身近な問題として捉えることができました。また、電子黒板や1人1台端末を活用することで、生徒は他者が挙げた多くの問題に触れ、自己と他者との共通点や相違点を確認することができたため、自分や家族の物資・サービスの選択・購入における問題について、新たな気づきを促すことができました。

課題を設定する場面では、「持続可能な社会の構築」という題材を通して働かせる生活の営みに係る見方・考え方を明確にすることで、グループで個々が設定した課題を発表し合う際に、共通の視点で意見交流することができました。また、他者の考えに触れ、自らの考えを明確にしたり、広げ深めたりすることができました。

家庭分野における課題発見においては、いかに生徒が自分事として捉えられるかがポイントになるため、情報収集と実践を重ねながら、様々な手立てや工夫などのスキルアップを目指していきたいと思います。